

## こども食堂 第2回円卓会議の報告

教育福祉連携推進室

第1回の円卓会議に続き、今回も30名を超える皆様のご参加をいただきました。

子どもの貧困やこども食堂について考え、互いの強みを生かしあうという本会議の目的に近づいていくため、今回は、NPO法人西淀川子どもセンター 前代表の西川さんをお願いし、お話を聞かせていただきました。

### 1.当日のスケジュール

期日 平成30年12月21日(金) 16:00~17:30 (受付15:30から)

15:30	16:00	17:05	17:30
受付	開会挨拶	講演	感想交流

講演 『子どもの心に届く支援を、地域に』

講師 NPO法人西淀川子どもセンター 西川日奈子さん

### 2. 当日参加者 31人

#### 3.開会挨拶…(市)総合政策部長 上田力也

●子どもを見守り健やかに育てていくには

・橋本市は、自治基本条例を策定。第4条基本理念では、自分たちの「まち」は自分たちでつくっていくとしている。それは、子どもから高齢者まで、共に支えあいながら安全で安心に暮らせる「まち」を作ることであり、子どもを核として、そこに大人が集まり、地域をつくるというイメージ。

・そのために、橋本市は子どもの数は減少しているが、家庭、地域、学校、行政が力を出し合い、子どもの健やかな育ちを支援する、

・ふるさとへの愛着を育て、社会人として活躍した後にはふるさとに帰ってきてくれるような町をつくっていききたい。

・本日は、西淀川子どもセンターの理事である西川様が取り組んでこられた「子ども支援」について実践を交えお話をいただけます。多くを学ばせていただけること楽しみにしております。



### 4.講演骨子・・・・・・・・・・・・・・・・・・レジюме参照

## (1) 自己紹介 (エピソード)



・2007年、西淀川区（兵庫県よりのまち）で「子どもセンター」を立ち上げた。

立ち上げに至った背景には、自分自身のCAPの活動（子どもを暴力から守るワークショップ）や保護司（12年間）の活動で更生保護活動（犯罪を犯したり、非行を犯したりする子どもの立ち直りを助けていく活動）をしてきて、子ども時代に支援の要る人たちがた

くさんいることにショックを受けたから。もっと早いうち（子どものうちに）にこの子たちと出会えていたら、声をかけられていたら、こんなにならなかったのでは…と思うことがあったから。また、子どもたちとの相談活動を通して、先生たちが思っている以上に子どもたちは困っている、しんどい思いをしていることを知ったこと。

（例：先生は、学校でぽつんとして友達を遊ばないのが心配だというけど、その子と話す「うちのお父さん家でずっとガラスふいてます（精神的にふさいでいるような状況?）」と話した。この子は学校だけじゃなく家でもしんどかったんやな、学校で元気に遊んでる場合やなかったんやなと知ったり、「林間学校へ行くんやけど、お母さんが心配やねん」「お母さんが一人になるのが心配やねん」という子どもがいたり。子どもはいろんなことが心配で、それがあつぱつぱんと電池が切れたようになって学校に行けなくなったりしている。）

今回の円卓会議のように、（子どもたちの気持ちを想像しながら）子どもを核に支援にあたっている人たちが集まり、つながりあう機会をもち続けてほしい。

## (2) スライド「子どもの心に届く子ども支援を」を見ながら、活動紹介

### ①活動立上当時、「子ども支援」という言葉がなかった

活動を始めた頃、「子育て支援」はあったが、「子ども支援」（子ども本人を対象にした支援施策）という言葉が一般的ではなかった。「子ども支援」という言葉が出来るようになると予算がつき、施策が行われるようになる。

### ②「若いボランティアが動かす」

・公園にパラソルを開いて活動開始。その後、大阪府の施策で市営団地に事務局を置くようになった（5年間）。

・その後、夜間サテライトを開始。ボランティアの若い人が集まりやすいように駅に近い場所が必要になり古民家を利用。夜間サテライトを始めだした頃から、脚光を浴び始めた。その背景に、「西淀川で幼児の虐待死」「子どもの貧困」がある。

### <夜間サテライト：いっしょにごはん！食べナイトについて>

・始めから大きなことをしようとしたのではない。居場所にやって来た子たちが夜になっても帰ろうとしない。「帰っても誰もいない」「食べるものがない」と言う。ボランティ

アの学生から、夜も過ごせるようにできないかという提案があった。その情熱に押される格好でやり始めた（2013年）。

**・支えてくれるボランティアを募り、ボランティア養成講座（6回）で育成。**

- ・そのメンバーが今でも中心に運営してくれている。
- ・夜間サテライトの実施回数は年度によってばらばら。これは助成金の額が違うから。ボランティアスタッフには、1回1000円＋交通費を渡すことにしている。

**③「子ども支援を地域に」というのは何か…。**

小さい頃から知ってもらっていて、大きくなっても「どうしてる?」「元気にしてる?」「クラブなにしてる?」と話せる関係を地域に取り戻すこと。そこに専門機関・行政とのいい関係が重なれば重なるほどいい。

**④子どもの貧困は「真昼の星」と言っている…**

くうず→貧困→虐待→学力→就労→ 世代を超えてしんどさがグルグル回っている状況。自分が貧困だとか、虐待されていると言う子はいない。研修会に行くと参加者から「貧困の子どもって本当にいるのか?」と問われることもある。

「いる」としか答えられない。「真昼の星だと思ってください」と言っている。

子どもの能力や努力では、この循環から抜けられないのが現代日本の社会。たまたま日本に生まれたから渦から抜け出せない…そういう子がいることを想像してほしい。

**⑤活動の軸は「人権」**

活動の軸は「人権」。人権が傷つけられたり、守られていない・保障されていないというのはしんどいこと、生きていきにくいこと。すべての人が人権の主体者（子どもも人権の主体者）。→子どもが有名なカウンセラーのところへ出かけて行って人権侵害などの相談をするはずがない。子どもの近くに、そのしんどさを自分のことばで話せる場所があることが大事。私たちが目指す居場所は、そんな場所でありたいと思っている。（地域に根ざした子ども支援を目指している）

**(3) 日本の子どもたちの状況について。**

①通告された虐待件数（ほぼ14万件）。子どもの数は減っているが、件数は増え続けている。半数くらいは警察からの報告件数。通告されてもその後は8割以上はそのまま帰される（一時保護所などに入れない）。→それを地域で見守ると言われても、地域ではどの子かその子かわからない状況。

②不登校児童生徒数（14万件）。大阪市では中学校で22人に1人が不登校という状態。

③そして、貧困。貧困で配慮すべきは「ひとり親」。シングルマザーの8割以上は就労しているが、その半数が貧困という結果。働いても働いてもワーキングプア、ダブルワークしている状況がある。離婚のときに傷ついている人、子どもがたくさんいる。7割方DVを含んだ状況で離婚しており、離婚して幸せになっているケースもたくさんある。

また、4組に1組はステップファミリー。連れ子再婚というのが多く、「何人きょうだい？」と聞かれた、答えに困る子どもがいる。

④いじめ。いじめには3つの要素、「排除する、支配する、いじる」のどれかが入る。いじるや遊ぶは本人も認めたがらない。中学校でいじめられたことがある子(52%)、自分なんていなくなればいい、死にたいと思ったことがあるという子(38.3%)。こういう状況で子どもたちは生きている。

⑤性的少数者。クラス(20人~40人)に1人いるということを知っておいてほしい。誰にも言えず、相談できずモヤモヤしている子どもいる。

「助けて」と言えて偉かったねと言える大人が近くにいることは大事。

#### (4) 子どもの貧困について

子ども食堂というのは、子どもの貧困からきている。子どもの貧困というのは深刻なもので「ほっておけない」というところから始まっている。貧困と言うと戦中戦後の状況を経験した人は絶対的貧困をイメージするが、「日本の貧困が7人に1人」と言われる貧困は相対的貧困を言う。日本は子どもを育てるのにお金がかかる国。貧困な子どもが自分に見えていようがいまいが、大変な子どもがいるということ。

#### (5) 活動で大切にしていること

①熟年層は入らずに若いスタッフが子どもたちと活動。熟年スタッフは控える。

②なぜか？子どもは「支援」「指導」「説教？」が嫌い。熟年組はそうなりがち。そうならないように。→「パートナーシップがいい」。

↓

③パートナーシップを支えるもの4点。

- ・人権意識(人権を守る)
- ・自己開示力(大人の側の自己開示力が大事。自分がどんな子どもだったかを思い出せること。何でもかんでもしゃべれることが自己開示力ではない。ここのところは痛い、聞かれないというのが分かっていることも大事。)
- ・想像力(私たちは所詮自分が生きてきた軸の範囲でしか考えたり行動できない。だけど多様な仲間がいればいろいろに想像できる。それは強み。)
- ・行動力(動いてなんぼ。動きながら考えて、いっぱい一緒に失敗して、間違ってたなと言いながら分かっていく。それがパートナーシップ。)

↓

そうするうちに、大人が仲良い関係であれば、子どもがしんどいことも話し始める。深刻な話を始めたりする。

そして、大人として引き受ける。一人の問題にしないで、みんなに向けてどうしたらいいか問題にする。(個人情報を守りながら、社会に向けて発信) 一番大事なのは、目の前の子どものために言いたくないこと、言えないこと、言わないことがあることをきちんと

## 尊重すること。守ること。

※言葉にした事のないことは言えない。今の子はさびしい・助けてほしいと思わないようだ。さびしい時間、子どもはユーチューブ見たり、ゲームしたりするからさびしいなど言葉にしない。

### (6) 支援のまなざしに必要なこと

- ・そこが安心な場（環境）→自信（できる）→行動力（何がしたいというのは最後）。
- ・学校でいくら補習しても、学校が安心な場でないと学習したことは入らないと先生たちに話す。
- ・子どもの願いはシンプル。「わかってほしい」「そばにいてほしい」「自分のことよろこんでほしい」「仲良くしてほしい」「信じてほしい」。この気持ちにより添えるか。子どもたちをリスペクトするのは、子どもたちは一緒に幸せになりたいと思っているところ。「一緒に…」というところをはずさない。一緒にという思いを実現するのはしんどいこと（裏切られたり、うまくいかないことを経験する）。でも、その気持ちがあるから子どもは回復できる。（大人たちは一緒に…という感情を削ぎ落とされて、自分だけ…になる。そして、回復できなくなってしまう。）
- ・仲間の善意があって、支えたり支えられたり、いろいろな人の多様性でカバーし合えることはたくさんある。→しかし、助けようとする側を支えたり、カバーしたりする力は足りていない。どうか頑張っている人を潰さないで、孤立させないで。言い仲間というのはリーダーを孤立させない。
- ・貧困の貧は、お金による解決・行政の仕組みがいります。でも困は、私たち民間で私たちがやれることがまだまだあると思う。一緒につながりなおすことで、私たち自身もいい人生を、いい時間を生きていくパートナーになれると思う。体力・気力・時間で頑張れるものなら頑張るけど、貧は難しい。  
→自分たちの子ども時代を支えてくれた大人に感謝して、頑張る大人たちを育てていかないと！

### (7) 自分たちの活動の強みとは…

- ①一番の強みは、子どもを囲む真ん中は「若者スタッフ」と決めていたこと。若者たちには個人情報伝えないが、関係性が出てきたら子どもたちはボランティアに一番言う。若者の存在感はすごく、子どもはどんどん元気になっていく。
- ②ボランティアシェフがいること。1ヶ月に一度はボランティアシェフに来てもらって（1回3人まで）、食べ物のことを心配せず若者スタッフが子どもと一緒に過ごせるようにしている。→ずっとボランティアシェフで…とはならない。若者スタッフと子どもたちが一緒に買い物したり、調理したりする体験が大事。
- ③それに、子どもの権利条約も軸の一つ。4つ覚えておいてください。「生きる権利」。

守られる権利。育つ権利。参加する権利。」日本は、これを保障できている社会なのか？特に弱いのは参加する権利。

#### DVD 視聴後、レジュメ「子どもの心に届く支援を、地域に」を解説。

レジュメ「どういう論理で子ども支援活動を進めて生きたいのか」を参加者で読み合い、解説を加えていただきながら終了。

その後、質疑の時間をもつ。

こども食堂のこと（参加してほしいと思う子どもが参加しやすいようにするには…）、挨拶運動のときの気にかかる子どもへの声かけ、若者スタッフ・シニアスタッフのことなどへの質問に対して、丁寧にお答えいただいた。

最後に、講演中に参加者が書いてくれたメモを講師の西川先生への感謝の言葉としてお伝えします。

橋本市の子育て支援に関わる私たちのつながりを強めていただけたと思います。先生、ありがとうございました。

#### 1.講師の西川さんについて

- ①気さくで分かりやすい。温かい人です。普通の感覚が大切なのだな。
- ②お人柄でしょうか。ふわっと心をつかまれてしまいました。
- ③分かりやすい語り口調でよく理解できた。子どもを中心にした子ども支援システムを上手につくられている。
- ④保護司さんというボランティアがあることを初めて知りました。そこから始まった行動力がすごいと思いました。自分の子どもの頃を知ってくれている大人がいることは本当に貴重です。
- ⑤すべてが子どものためという思いが伝わり、何を行うのもきっかけはまず、子どもの様子を見過ごさないこと。
- ⑥一言一言の言葉かけから人の輪が広がって…10年間の経験・体験がよくわかりました。
- ⑦自らの活動の体験をもとに実体験の生のお話を聴くことが出来ました。大変貴重で心を打つ内容でした。長い時間をかけ、費やされた西川様の話に感動しました。多くの苦労や感動があったかと思います。今後も活動に励まれることを願います。
- ⑧2007年と早い時に、貧困に気づかれたことに、まず感心。私自身、1996年に子どもを産み、大阪市内で母子家庭で子育て。そのとき知っていたら…と思いながら、私自身も子どもお助け隊になりたいと心より思いました。

#### 2.西川さんのNPO活動について

- ①おそらくすべてを生かして、足しあってやってきたのだな。
- ②NPO組織を立ち上げて活動に結びつけたのがすごい。私たちの地域にはなかなかNPO活動が根付いていないので、ノウハウを教えてください。

- ③継続することは難しいですね。思いを伝えること、新しいスタッフが入りやすい場所であることが大事なのでしょうね。素晴らしい活動を知ることができてよかったです。
- ④いろいろなことを抱えているであろう子どもたちが、夜間サテライトに参加しているとき、笑顔いっぱいですごく子どもらしく過ごしていることに、活動されているボランティアの皆さんの子どもたちへの深い思いを見せていただいた気がします。
- ⑤若い子を中心とした活動。活動を続けることが大切。(10年続けていく＝子どもたちが来つづけていること、先を見据えた活動、子ども＝自分の中でのもので)
- ⑥10年間の経緯や努力が有ればこそ。だなあ～と感じました。
- ⑦一人でいる子どもにとって居場所が出来ることは何よりもよいことだと思います。その場所で勉強やごはんを食べたりすることで安心でき気持ちが落ち着いていくと感じました。
- ⑧若い世代への声かけは素晴らしいですね。それから集まる若者がいることも、活動に共感できる活動があってからのことだと思います。
- ⑨何が正解などわからないけれど、子ども側(貧困)のことを理解されているので、とても素晴らしいです。私もつい先日、貧困家庭で育った娘に話を聞く機会がありました。その時の娘のことは、想いがそのまま西川先生の活動の根元にある考えと同じでした。ただ、びっくりです。

### 3.話の中の関心、驚き、疑問

- ①若いスタッフが育っていく場でもあるのだ、ということ。
- ②若者スタッフをキーパーソンにしているところがすごい。貧困を抱えている子どもたちをしっかりと支えて、いっしょに幸せを願っている姿が素晴らしい。
- ③西川先生の子どもセンターにご縁のあった子どもたちは幸せだなと思いますが、その子どもたちの親が気になります。その親たちとの接点はありますか？親たちへの支援は？
- ④こどもの時間が心配。気づける大人になりたいです。DVDのはじめの言葉が普段聞きなれた言葉でした。もっと子どもの言葉を聞いて気づきたい。一緒に過ごすことの大切さがわかりました。
- ⑤子どもが子ども自身のことを話せる人が近くにいることが大切だと聴かせていただき、私は学童保育で勤めているのでまさしくその存在になれると思いました。
- ⑥子育て支援と子ども支援。別々の支援が必要であること 支援・指導員と言うよりはパートナーシップ 今の若いスタッフさんにはどのような関わり方をされていますか？
- ⑦「ごめん」や「ありがとう」と言えるよりも「助けて」と言える子どもが強いことを知りました。その言葉を言えた時、その子にとって不安や嫌なことが少しは楽になるんだろうと思います。
- ⑧話の中で、「子育て支援」と「子ども支援」の違いに共感しました。橋本市は「子育て支援」にも力を入れ若いママさんたちの支援に支援することは多くとも、「子ども支援」が少ないことは実感しています。日本の流行でしょうか？とってしまう行政があります。

⑨市営住宅を提供してもらえるには？

⑩若いサポーターさん+子どものみで！が理想。サポーター養成講座（6回）の内容は？夜間サテライト準備に1年…どのような苦勞をして実現に至ったのか？

#### 4.その他

①子どもたちに多面的な経験をさせてやりたい。心の窓をいろいろ開けてやれる方法。

②私の出来ることからしていけたらなと思いました。橋本市でがんばりたいです。

③子どもと若者スタッフに任せ、シニアスタッフは距離をおくことって、good！ですね!!橋本市のこども食堂とは考え方が少し違う気がしました。広い意味の居場所とこども食堂の設立当初の「貧困」とは少々違う気がします…

④若いボランティア…実は、子どもを育てながらも若いボランティア⇒「次の親」を育てているようにも思えました。子どもとの関わりを経験した若いボランティアは、きっといい親になり…子育てをするのではないのでしょうか。若者が中心となるような活動、それを支援する熟年、私もそうなりたいと思います。新たな視点を本日の会で知ることができました。ありがとうございました。

#### 5.講師にエール（感謝の言葉）を

①拍手です。やれることあったら、何でも声かけてください。

②活動のパワーの源は子どもでしょうか？今日、お話を聞かせていただいてパワーを分けさせていただきました。ご縁をありがとうございました。

③世のため、人のための支援活動をこれからも続けていってください。

④貴重なお話をありがとうございました。「子ども支援」しっかりと考えていきたいと思えます。今日、お話を聞かせていただけたのもご縁ですね。ラッキーでした。

⑤貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。学童保育で何ができるか、それ以外でも何ができるか考えてみたいです。出来ることあるような気がします。

⑥先生は活動の中で若い人をとても生かしているなあと思いました。自分たちから次世代へは自分にとっても課題ですので、見習いたいです。ありがとうございました。

⑦子どもの願い。形式というより、子どもの心の理解。

・言いたくない・言わない・言えない

⑧軽快なトークでアツという間に時間が過ぎました。遠方より講和をありがとうございました。

⑨私が橋本市のこども食堂の小さなお手伝いをさせていただき、全国の無料塾や寺子屋のNPO団体とつながりました。お互いに励まされます。…いろいろなことを勉強させていただき、…ありがとうございました。

⑩子どものためになるように考え行動し活動を続けてこられたことは、本当に素晴らしいことだと思います。



⑪本物の話をありがとうございます!!